



議会だより

しらたか

9月定例会
山形県白鷹町議会

Vol. 160

2023年10月17日発行
(令和5年)



地域の知恵を学ぶ

こぐわキッズ広場 川の生き物調査

- 町民の生活を応援 ② p
- 議員の視点から令和4年度決算を審査 ④ p
- 追跡レポート 政策提言は町政にどう生かされたか ⑱ p
- 輝く地域の力 白鷹の未来を彩る「白鷹町商工会青年部」 ⑳ p

お手持ちのパソコンやスマートフォンなどで議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。

この広報は、議員の自主編集で発行しています。

9月
定例会

定例会の概要

期 間 9月5日から14日（10日間）
 審 議 令和4年度決算認定9件 補正予算5件
 人事案件2件

※原案のとおり可決

一般質問 丸川 雅春 議員 【避難所および小・中学校における熱中症防止対策について】
 笹原 俊一 議員 【①6次産業化推進のために ②有害鳥獣処理施設について
 ③HPV ワクチンについて】
 横山 和浩 議員 【不登校児童生徒への「自立支援」の充実を期待する】
 佐々木誠司 議員 【多発するクマ被害への対策について】

補正
予算

町民の生活を応援

地域応援券（商品券）給付

緊急経済対策地域応援券給付事業

物価上昇による生活への影響を和らげ、消費を促す目的として、白鷹町内の事業参加店舗で使用できる地域応援券（商品券）の給付を行うもの。

17ページに関連記事



給付内容

町民1人当たり5千円分の商品券

- 予算額 6900万円
- 財 源 LPガス等物価高騰対策・地域経済活性化支援事業費補助金（県）
1946万円
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（国）
4954万円

補正予算の 主な質疑

横山委員 地域医療確保推進事業の具体的な内容は何か。
健康福祉課長 町内開業医と町立病院の連携を目的とし、町内で診療所の新規開設や事業を継承する医師、歯科医師に対する奨励金交付制度を創設し、支援するもの。

佐々木委員 肥料が高騰している。産地の高収益化に向けた土づくりの支援とは何か。
農林課長 堆肥を実証的に活用する取り組みで、国の事業。10アールあたり1トンずつ、21・8ヘクタールに堆肥を投入する計画。今回は1組織と4法人で取り組みたい。



実りの秋。肥料高騰の影響は…

中丸公園ため池内の支障木撤去
佐々木委員 支障木を撤去した後の、増水を見据えた護岸対策をどう考えているか。
建設課長 中丸ため池に流れる常海沢川は町管理の河川。状況を常に監視し、今後、護岸が必要なほどの災害が出るようなことがあれば、改めて検討していきたい。

つづく経済支援

灯油・肥料・生活品

一般会計補正予算の主な内容

地域医療確保推進事業 地域医療の確保に向けた対応	300万円
産地生産基盤パワーアップ事業 産地の高収益化に向けた土づくりの支援	550万円
公園事業費 中丸公園ため池内の支障木撤去など	535万円
地域人材ベースキャンプ設立事業 担い手、人口確保に向けた事業への追加対応	300万円
冬の生活応援事業 灯油価格高騰による高齢者世帯等の負担軽減	391万円
第2期健康と福祉の里構想推進事業 健康福祉センター改修に向けた実施設計	1920万円
新型コロナウイルスワクチン接種事業 秋冬のワクチン接種への対応	2728万円
緊急経済対策地域応援券給付事業 物価等高騰を受けて町内への生活応援	6900万円
緊急自然災害防止対策事業 町道の災害防止対策	3400万円
消防用緊急車両購入事業 消防団本部車両の更新	700万円

など3億4001万円を補正し、一般会計予算総額は92億8620万円となった。

◎財源は、国・県支出金、繰越金などで対応します。

※万円未満は端数調整

ら令和4年度決算を審査

各会計決算の議決状況

会計項目		歳入(収入)	歳出(支出)	議決状況	
一般会計		107億7189万円	98億7705万円	全員賛成により認定	
特別会計	十王財産区	357万円	44万円		
	下水道	4億4999万円	4億3177万円		
	国民健康保険	15億6969万円	15億4675万円		
	農業集落排水	1億6097万円	1億5414万円		
	介護保険	16億9609万円	16億2248万円		
	後期高齢者医療	1億6986万円	1億6715万円		
事業会計	水道	収益的	3億2250万円		2億9113万円
		資本的	4459万円		1億5437万円
	病院	収益的	12億1025万円		12億428万円
		資本的	4905万円		1億3433万円
合計		164億4844万円	155億8390万円		

(万円未満は端数調整)

※「収益的」は事業に係る収入と支出。「資本的」は施設・設備に係る収入と支出。

議会で可決した予算が適正に執行されたかを審査するとともに、その行政効果や経済効果を精査し、審査しました。審査の結果は、後年度の予算編成や行政執行に生かされます。

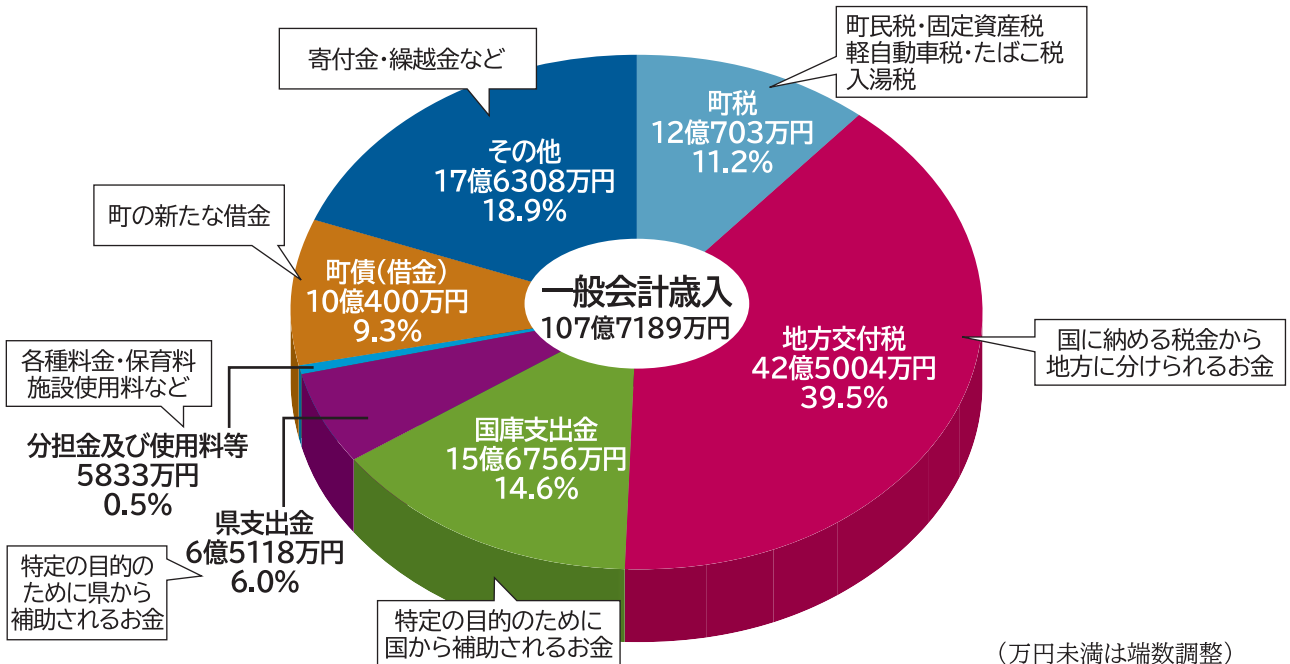
決算を委員会で集中審査

6ページから関連記事

令和4年度に行った主な投資的事業

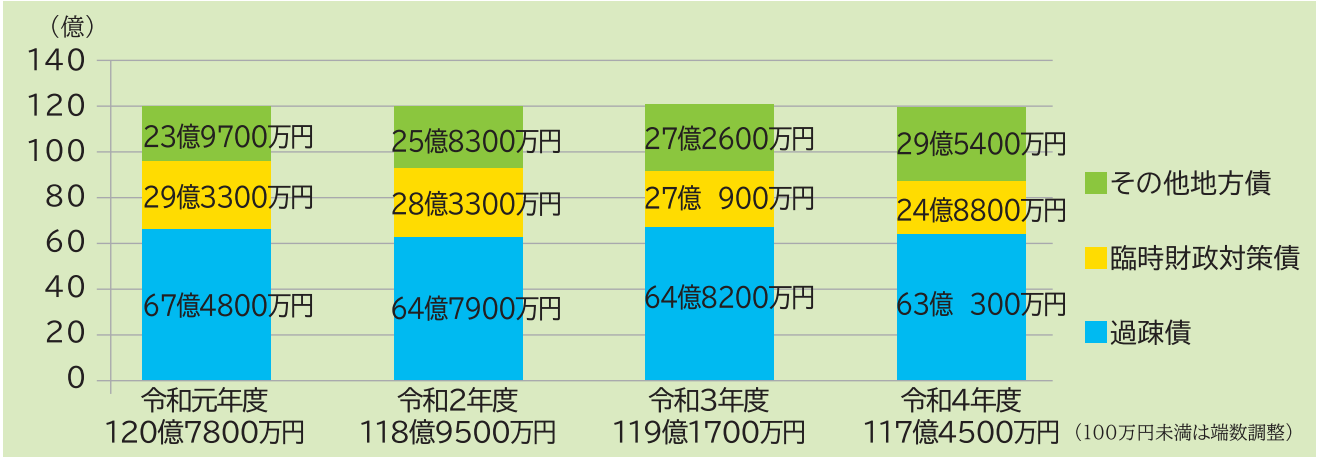
(万円未満は端数調整)

鷹山地区拠点施設整備事業	3億6081万円	町道安全対策事業	6972万円
東根小学校長寿命化事業	1億990万円	緊急自然災害防止事業	7755万円
除雪機械格納庫整備事業	1億320万円	防火水槽新設事業	4561万円
児童発達支援センター等開設支援事業	3049万円	校内防犯対策環境整備事業	1232万円



地方債（借金）の状況

●地方債とは、町が会計年度を超えて行う借入れのことです。



●その他地方債とは

災害復旧や教育福祉施設整備などのための借入れ。
返済額の一部は普通交付税として国から町に交付される。

●臨時財政対策債とは

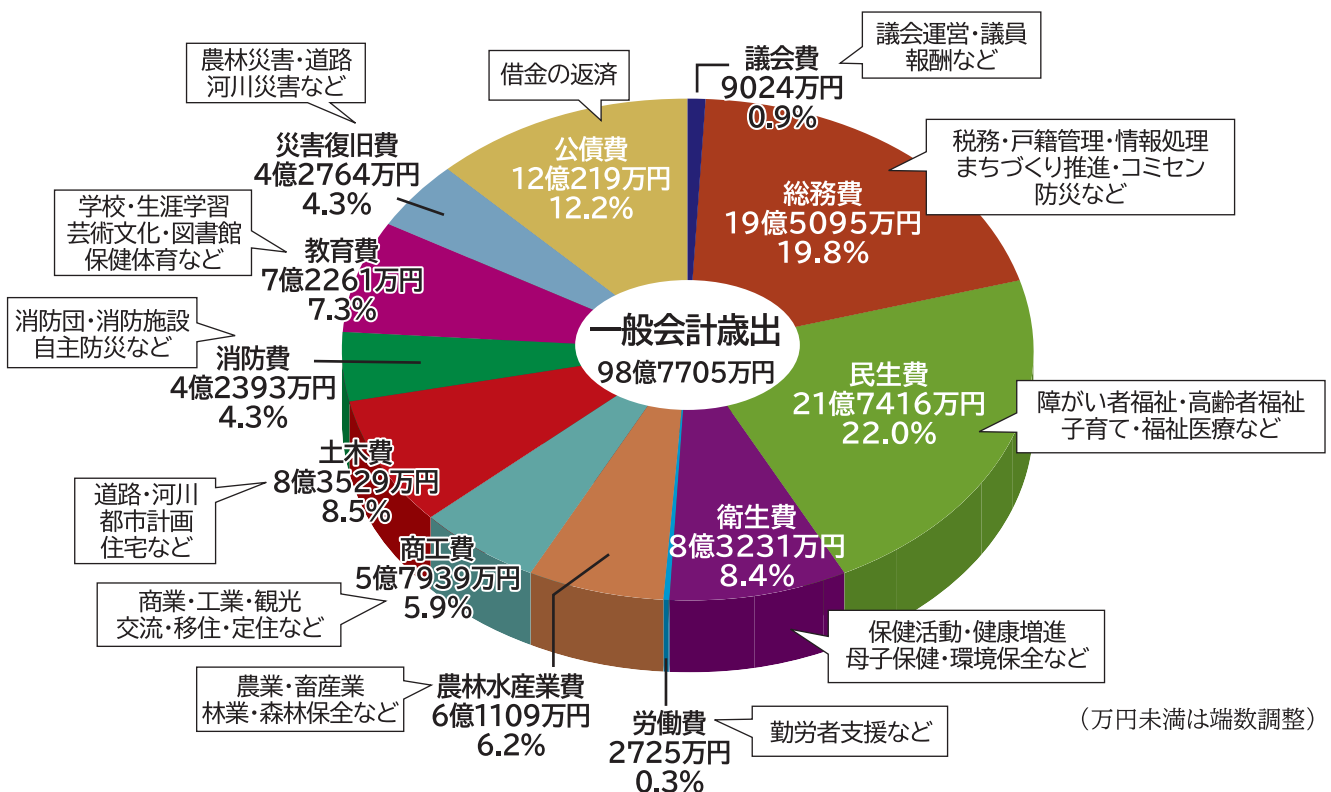
国の財源不足を補うための地方の借入れ。
返済額の全額が普通交付税として国から町に交付される。

●過疎債とは

過疎地域にあたる市町村限定で、発行が認められる借入れ。
返済額の約7割が普通交付税として国から町に交付され、残りの約3割を町が負担する。

白鷹町の財政力

区分・年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	説明
財政力指数	0.275	0.280	0.293	高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い。
経常収支比率	90.3	86.8	89.2	低いほど独自の政策のために使えるお金が多い。
実質公債費比率	10.7	9.3	8.7	収入に対する負債返済の割合。



決算特別委員会

歳入
(町の収入)

質疑



ふるさと納税の状況

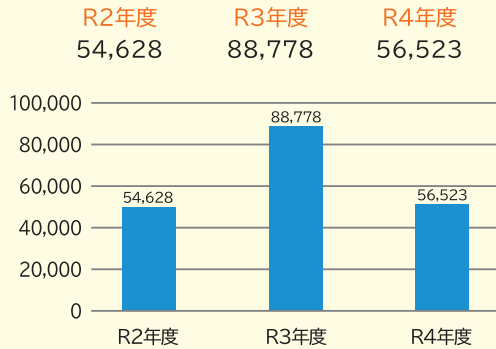
〔遠藤委員〕ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）の動向、返礼品企業撤退はどうか影響しているか。

いた紳士服・婦人服のオーダーメイド利用券が、企業の撤退により返礼品として扱えなくなったことが、寄付金額減少の一番大きな要因と捉えている。

〔商工観光課長〕令和4年度の実績は、寄付件数が2723件（前年比152.4%）、金額は5652万3千円（前年比63.7%）である。令和3年度寄付金額の約70%を占めて

ふるさと応援寄付金の推移

ふるさと応援寄付金額(千円)



賛成
討論

多岐にわたる対策を評価



竹田 雅彦 議員

物価高や燃料費高騰の影響を受けた町民及び事業者へ、地域応援券や各種交付金を交付し経済対策を講じた。保健福祉分野では、

全年齢の保育料完全無償化及び副食費無償化

を実施し、子育て世帯へ支援した。また児童発達支援センターが整備された。

産業振興分野では、

高騰する生産資材の購入支援に取り組み、一定の効果があつた。緑の循環システムについては、今後も期待する。観光分野では、令和6年度からのふるさと

森林公園の新たな指定管理者の指定が行われた。町内の観光施設や観光資源が活用され、発展することを期待する。

教育関連では、荒砥高校の入学者が40人となったことは特筆すべきものである。さまざまな支援や魅力づくりが功を奏したと高く評価する。

今後、デジタル化がさらに進む。町民が等しく恩恵を受けられるよう、尽力いただきたい。町民の視点に立ち、耳を傾け、各施策の目標達成を切に望む。

歳出 (町の支出)

質疑

〔笹原委員〕 利便性の向上はどのように図られているか。

〔企画政策課長〕 帰りの時間を病院の会計が終わる時間に設定したり、長井市の商業施設に停車するなど、利便性の向上に努めた。令和5年度からは、病院の会計が終わってから帰れるようにしている。

一般会計 総務費

デマンドタクシー 町外延伸

〔笹原委員〕 デマンドタクシーの町外延伸による動向はどうか。

〔企画政策課長〕 公立置賜総合病院まで延伸し、9か月の運行で延べ64人に利用していただいた。



〔金田委員〕 町外延伸便充実を図るための当初予算が450万円なのに対し、決算は160万円となったが、理由は何か。

〔企画政策課長〕 当初の想定では約200人弱ぐらいの利用を見込んでいたが、利用者が少なかったことが要因である。



デュアルモードビークル

デュアルモード ビークル

〔衣袋委員〕 デュアルモードビークル推進協議会の現在の状況と今後の展望はどうか。

〔企画政策課長〕 昨年度に視察と会議を行った結果、現時点での導入は難しいとの意見が出た。しかし、引き続き研究を行うため協議会は存続する方向であり、朝日町を事務局として今後も他市町と協調しながら対応していきたい。

マイナンバーカード の交付実績

〔竹田委員〕 マイナンバーカードの交付実績や達成率の状況はどうか。

〔町民課長補佐〕 年度末の交付率は90.85枚、69.9%であり、令和

3年度末と比較し30.9ポイントの増となった。今年8月末時点で、交付枚数は1万186枚、交付率は79.8%となっている。



カードができました。

民生費

保育料等無償化事業

〔丸川委員〕 0から2歳児の保育料等無償化事業が始まったが、利用者数はどうなっているか。

〔健康福祉課長〕 この年代の子どもの数は、令和4年度末で214人と把握している。利用者数は153人で、約7割の方が利用された。

障がい児ネットワーク事業

〔横山委員〕新規事業だったが、1年間を通じた活動の内容はどうだったか。利用者の声はどうか。

〔健康福祉課長〕保護者の皆さんが集まり気軽に話しや情報交換する場ができたことは、評価する部分である。また、知り合いを通じて参加をされる方や、相談を受け福祉サービス利用につながった方もおられた。話を聞いてもらうだけで大変心も軽くなったという方もおられたようだ。



置賜成年後見センター

〔竹田委員〕4年度からの事業だが、実績や成果はどうか。

〔健康福祉課長〕実績は、出張相談や電話相談などを通じて延べ176件の相談に対応し、さらには後見人の受任調整会議も5回開催をした。また、各市町を回ったの住民や職員向けの成年後見に関する研修会も実施した。

白鷹町からは、延べ25件の相談があった。また研修会は、制度研修会を12月に開催し、福祉関係者や後見を受けられている方のご家族向けの研修を行った。

衛生費

ごみの排出状況

〔丸川委員〕生活ごみの町民一人一日当たりの排出量はどのくらいか。〔町民課長補佐〕可燃、

不燃を合わせた年間総量は2293トンでおおむね横ばいだが、一人当たりの量は496グラムで、人口減少を考えると増加傾向にある。



少しでも減らす工夫をしましょう

営農型太陽光発電の取り組み

〔佐々木委員〕農地にパネルを設置して、営農と発電を同時に行う営農型太陽光発電について、本町における取り組み状況はどうなっているか。

〔町民課長補佐〕農業経営の安定化と、地球温暖化や燃料価格高騰対策に期待があるが、農作業に支障をきたす面もある。先進地の視察を行っており、講習会などで認識を深めていきたい。

農林水産業費

農地タブレット

〔金田委員〕農地タブレットを導入して、どのような効果があり、効率化が図られたか。

〔農林課長〕タブレット端末を8台購入したが、アプリケーションソフトの開発が令和4年度末になったことから、年度内の稼働ができなかった。令和5年度になり、航空写真と地番図を重ね合わせた図面を見ながら、現地で場所の特定が可能になるなどの効果が期待される。



畜産酪農緊急支援

【金田委員】畜産飼料価格高騰緊急支援事業補助金の効果はどうだったか。

【農林課長】支援内容は、家畜1頭当たりの年間経費増加額の10%程度を支援。畜産経営の1助にはなったと考えているが、その後も飼料価格の高騰が続く状況であり、限定的な効果であったと認識している。

林道整備の方向性

【丸川委員】林道整備の実績内容はどうか。

【農林課長】会計年度任用職員を置いて、冬季間の被害の確認、倒木の撤去、側溝の泥上げ、草刈りなどの維持管理作業等を実施した。

【丸川委員】今後の整備はどうなるか。

【農林課長】令和5年度は会計年度任用職員がいなくなり、林道管理は委託している。林道は基本的には森林整備のため整備したということになるが、農業関係での対応については、支援事業である多面的機能支払交付金事業などを、地域協議会の中で話し合いをしていた。管理費に充てていただければと思う。

商工費

産業用地可能性委託料

【笹原委員】調査の結果とその結果を踏まえて、今後どのように進めるか。

【商工観光課長】町内三つの工業団地に空きがないため、開発可能性の高いエリアを抽出し、立地条件や実施難易度などの評価ポイントに基づいて用地整備の基礎資料を作成し、開発優位性の観点から検討した。

現在は事業手法などを内部で研究中であり、検討を進めたい。

原油価格等高騰対応支援事業

【丸川委員】現在も価格高騰が続いているが、

今後の事業実施の考えはどうか。

【町長】この事業はかなりの効果があったものと捉えている。国の動向を確かめながら、検証を行い、より効果が持てるような対応を検討させていきたい。

鮎の漁獲量は増えたか

【竹田委員】ブラックバス駆除の実績と課題を伺う。

【商工観光課長】5月から10月まで実施し、52人に参加いただき、1633匹捕獲した。

【竹田委員】鮎の漁獲量は増えたのか。

【町長】今年は川の水量の減少や、カワウの影響により増えてはいない。今後も努力していきたい。



漁獲量増に期待

土木費

橋の長寿命化工事状況

【佐々木委員】橋の長寿命化工事のこれまでの実績と、今後の計画はどうか。

【建設課長】全153橋中20橋の補修が完了している。現在、緊急対応が必要な橋はないが、5年ごとに全橋を点検し、補修の必要が見つければ早期に対応したいと考えている。



堆肥センター



工事が待たれる橋（杉沢）

空き家解体数が増加

竹田委員 予算を修正して増額した。実績と増えた評価はどうか。

建設課長 補助金の交付件数は10件であり、令和3年度の10倍となった。事業の周知に努めたことが解体増につながったのではないかと。

公園の安全管理

金田委員 危険と思われる遊具はあるか。

建設課長 都市公園と呼ばれる施設が8施設ある。うち遊具が設置されているのは4施設。遊具の数は個体数で33となっている。



点検結果は、一部に経年劣化が見られたが、緊急的な修繕、若しくは処分が必要なものはなかった。

消防費

個別避難計画

笹原委員 地域における作成・進捗状況はどうなっているか。

総務課長 各地区の自主防災組織に依頼し、実績は23組織224名分の個別避難計画が策定された。対象となる避難行動要支援者名簿登録者のうち95・2%となった。

教育費

荒砥高校40人入学

山田委員 5年度は荒砥高校に定員の40人が入学できた。町としての総括を伺う。

教育次長 高校魅力化コーディネーターの配置や個別説明会の開催など魅力化に取り組んできた。生徒の習熟度に合わせたきめ細やかな対応がなされ、生徒が自信を持って学習に臨める小規模校の良さを、コーディネーターや学校関係者などから広まり、生徒を確保できたのではないかと。

山田委員 今後の新しい考えや進め方はどうか。

町長 本当に子どもたちのためになるのかどうか議論しながら進めていく必要がある。

日本人ALTの効果

竹田委員 ALT4人のうち1人を日本人にしたことによる成果はどうか。

教育次長 担任の先生とALTとの打ち合わせがスムーズに行われ、より詳しく授業や生徒について共有できるようになった。また児童生徒にとっても、日本語で質問できる安心感もあり、効果は大きいと捉えている。

あゆみしる開館後1年の評価

横山委員 歴史民俗資料館「あゆみしる」の開館後1年の活動の評価と今後の課題を伺う。

教育次長 県外、町内外から853人の来館者があった。企画展では来館者から高い評価を得ており、昔ながら



の稲作体験など工夫を凝らした企画でも集客に努めてきた。

冬季の来館者が少なく、まだ認知度が低いことも課題。さらに工夫や仕掛けをしていきたい。

特別会計

国民健康保険 特別会計

医療給付額の状況

丸川委員 被保険者一人当たりの医療給付額と、県内での状況はどうなっているか。

町民課長補佐 前年度より5万円ほど多い49万円で、県内では2番目に高い状況である。原因として、前期高齢者率が高いことや医療機関が多い山形市での受診機会が多いことが考えられる。

介護保険 特別会計

認知症初期集中支援 推進事業

横山委員 早期診断、早期対応に向けた支援だが、実績はどうか。

健康福祉課長 年間延べ65件の訪問をし、必要なサービスへのつながりなどに尽力いただいた。成果として、家族や周りの方の理解が進み、識別診断での正式な判定により、介護サービスにつながったケースも多くなった。

農業集落排水 特別会計

浄化槽整備事業費 補助金

丸川委員 支援の内容が拡充されたが実績はどうだったか。

上下水道課長 下水道普及員による推進に取り組んできて、年間目標を30件としているが実績は15件であった。今後も個別訪問を実施しながら状況を把握させていただき、水洗化合併処理浄化槽転換に向けて取り組んでまいりたい。

公営企業会計

水道事業会計

有収率の状況

丸川委員 目標値である90%を1%割っているが、要因は何か。

上下水道課長 業務指標として重要な指標と捉えている。一番大きなものは漏水で、減らす対策として、老朽管の布設替え、漏水調査と早期修繕、流量計の更新による正確な流量の把握などに努めている。

監査意見

町民の発展と町民の福祉の向上が図られることを期待する。

実質収支は8億490万4千円の黒字となり、実質収支比率は、前年度に比べ1・5ポイント減少し、15・6%となった。経常収支比率は、経常経費の増加が上回ったことにより、3・5ポイント上昇し、90・3%となり、財政の硬直化が進行した。

また、実質公債比率は10・7%と前年度より1・4ポイント上昇した。今後ともこれらの指標に注視しながら健全な財政運営に努めていただきたい。

主な事業では、子育て支援、教育の充実、新型コロナウイルス感染症の感染防止及び経済回復対策、行政のデジタル化の推進、定住化に向けた取り組みなど積極的に事業が展開されたことを評価する。

当年度は「第6次白鷹町総合計画」の前期基本計画の中間年度を迎えた。事業の効果や進捗状況など点検・評価を引き続き実施しながら、各事業がさらに前進するよう町民と一体となった取り組みを一層推進し、町政の発展と町民の福祉の向上が図られるようさらなる努力を望む。

代表監査委員 竹田 謙一
監査委員 今野 正明



録画を配信

学校体育館、武道館への冷房対策

町長 子どもたちの健康を考え、前向きに検討していきたい



丸川雅春議員

学校での熱中症対策

学校体育館、武道館への冷房対策

問 小・中学校体育館、武道館への冷房対策の方向性はどうか。

町長 現在の気象状況や、子どもたちの健康を考えると、実施していかざるを得ない環境になってきている。財政的な計画の中で総合的に判断し、前向きに検討していきたい。

適切な判断と対策

問 熱中症への対応について、教職員の方の適切な判断が重要と思う。対策はどうなっ

ているか。

教育次長 正しい知識と理解を持ち対応する必要がある。中学校では、米沢市の事故を受け緊急職員会議を開き周知徹底を図った。各小学校では2学期開始前に熱中症予防の取り組みを確認した。

携帯電話の持ち込み

問 文科科学省は中学生の持ち込みを条件付きで認めているが、本町の緊急連絡の手段として持ち込みの考えはあるか。

教育次長 使用により犯罪やトラブルに巻き込まれることや、SN

Sによるいじめの原因になることも問題視されているため、望ましい対応ではないと考えている。

夏休みの延長

問 夏休みを現在より一週間程度延長したものにするという考えはないか。

教育次長 一日あたりの授業時間を増やすなどさまざまな調整が必要となり、児童・生徒や教員への負担が大きくなることから難しいものと考えている。

非常用電源

副町長 本町では全教室が冷房完備となり学習環境は改善されたと捉えている。子どもたちには勉強に集中してもらおうことも大事で、保護者の負担軽減など、総合的な見地から考えていく必要がある。

避難所での対策

暑さ指数

問 避難所の暑さ指数の考え方はどうか。

総務課長 環境省から提供された指数を表示することと定められているが、大きいエリアの指数となるので、今年のように暑い状況が続く場合には、避難所ごとの計測も必要になると思う。

非常用電源

問 コミュニティセンターの非常用電源はどうしているか。

企画政策課長 カセットガス式やガソリン式の発電機、太陽光発電



となる。空調は使用できなくなるが、鮎貝地区コミュニティセンターにおいては、LPガスによるガスヒートポンプエアコンを設置しており、停電時でも空調の使用は可能となる。

問 今後こうした設備を段階的に増設して、避難所の機能強化を図っていく必要があると思うが、いかがか。

総務課長 災害対策という観点では優位性もあるのですが、選択肢の一つとして検討していきたい。

私もひとこと

子どもたち一人一人に目を向けて、大切な命を守っていただきたい。
(町内60代)

6次産業化推進拠点施設 施設整備 立ち止まってはどうか

町長 中身が整うまで出発できない



録画を配信

6次産業化推進拠点施設を 中身あるものに 施設を望む声は あるか

あるか

問 6次産業化推進

拠点施設の整備を望む
声やニーズはあるのか。

町長 補助事業の活用
や相談状況からニーズ
は確実にあると感じて
いる。

支援体制は整うか

問 コーディネータ

ーの配置など伴走型で
の支援体制は整うのか。
町長 条件に見合う人



菅原俊一 議員

材確保が難しく、代替
策の検討や地域おこし
協力隊の公募なども含
めて取り組む。

一度立ち止まっては

問 中身が整わない
まま建物を建てても継
続が難しい。一度立ち
止まる必要があるのだ
はないか。

町長 それらが整うま
で出発はできないとい
う視点で判断していく。

有害鳥獣処理施設 の早期建設を 処理施設の検討状況

処理施設の検討状況

問 広域的に活用す

る有害鳥獣処理施設整
備の検討状況はどうか。

町長 置賜広域での施設
整備は、有害捕獲数減少
や費用対効果への懸念な
どからスケジュールの先
送りが確認された。しか
し本町としては早急な整
備が必要と考える。

今後、町単独での施
設整備を検討する。

整備するメリット

問 処理施設を建設
するメリットは。

農林課長 実施隊の高
齢化や減少が進む中、
埋設が不要となり場所
の確保や穴掘りなどの
負担が無くなることで
捕獲意欲の維持につな
がるのが期待される。
また、豚熱等伝染病
の防疫、水環境の不安
解消にもつながる。

子宮頸がん予防ワクチンの 男性への接種と補助を 接種者数と接種割合

接種者数と接種割合

問 現在までの接種

者数と接種割合は。

町長 接種勧奨の対象
者は643人で、1回
以上接種した人は15
8人、24・6%、その
内決められた接種回数
を済ませたのが90人、
14%と把握している。

男性への接種と補助

問 予防、撲滅につ

なげる可能性があるワ
クチンであれば男女と
もに接種することが重
要と考える。男性への
接種と補助を実施する
考えはないか。少子化
が進む中、大切なパー
トナーを守るためにも
接種は必要と考えるが
どうか。

町長 男性にとっても

中咽頭がんや肛門がん
などの発症予防に効果
があるものとして薬事

承認上は接種できるが、
現在のところ男性は任
意である。

国では「専門家会議
で論点整理し必要性に
ついて議論を進める」
としている。これらの
動向を注視して判断し
ていきたい。

私もひとこと

男の子にも接種しても
らいたい。
(町内30代)





録画を配信

不登校児童生徒への自立支援の充実を期待

町長 子どもたちが教育を享受し自立できる環境が大事



横山和浩議員

自立への支援

問 不登校児童生徒への自立支援はどうか。

教育長 学校ではチームでのケース会議で指導方針を決めている。保護者には面談などで困り感をお伺いし、何があっても何らかの形で児童生徒や保護者と関わる姿勢で取り組んでいる。

学校以外の居場所や相談場所、学びの場については、紹介するリーフレットを作成し、不登校・傾向児童生徒の保護者へ随時配布している。

教室以外の学びの場として、学習塾や保健

室などへの登校、授業のライブ配信などがある。今年度からは、教育支援センターの役割を果たす「あつといーす」を開設している。

学校内の居場所

問 小学校内に、困り感がある子どもたちの居場所を設けてはどうか。

町長 フリースクールなどに期待したいが、当町人口での経営は困難と思われる。ボランティアで開設していただけならいろいろな制度設計が可能であり、頑張っていたきたい。

教育次長 あつといーすは小学生も利用可能

希望に沿う支援を心がけている。

負担感の軽減

問 毎日の電話連絡など負担を感じている保護者もおられる。より負担感の少ない方法で保護者と学校が関われるよう配慮してはどうか。

町長 親としての責任を理解し、学校との連携をどう持つかが大事。連携を深め学校との距離を縮めることを考えたい。

不登校への理解

問 不登校というだけで問題行動であると受け取られないよう配慮することが、教育機会確保法の付帯決議で示されている。町の取り組みはどうか。

町長 不登校というよりも、子どもたちが教育を享受し自立できる環境を作るべきと認識している。そのようなまちづくりを進めたい。



私もひとこと

一番つらい思いをしているのは子ども。その気持ちに寄り添ってもらいたい。

(町内30代)

問 さまざまな考え方があると思うが、地域の皆さんの理解が必要と考える。不登校児童生徒の支援者から、不登校は命にも関わる問題だと言われ、危機感を持った。町としての所見はどうか。

町長 地域の中で理解を深めながら、その子に合う支援を行えるかが分かれ道と思う。行政で具体的に足りないことがあれば、おっしゃっていたきたい。具体的な方法を教えていただければ、我々が動く方法も出てくる。

多発するクマ被害への対策は

町長 捕獲わなの数を増やすことも考えている



録画を配信

捕獲・注意喚起

クマ被害の状況は

問 今年に入ってからクマ被害の状況は

農林課長 8月末現在で、農作物被害35件、人的被害が1件。昨年同期は、農作物被害が17件。特に蚕桑、鮎貝地域で増えている。

被害への対策は

問 注意喚起や駆除など、具体的にどのような対策を取っているか。

農林課長 関係部署と情報を共有し、安全確保を行っている。のぼり旗の設置や広報パト



佐々木誠司 議員

ロール、県の許可による捕獲わなの設置、緊急な場合は町長の許可によるわなも設置している。電気柵の設置

支援と、地域の方々は周辺の草刈りや未収穫作物の除去もお願いしている。

保有している捕獲わなの数は

問 わなは何基保有しているか。保有数に制限はあるか。

農林課長 鳥獣対策協議会でクマ用の捕獲わなを5基保有している。保有できる数に制限はない。

わなを増設できないか

問 捕獲わなを増やせないか。

町長 増やしていきたいと考えているが、危険も伴うので、鳥獣被害対策実施隊と十分に話をしていきたい。わなが増えたからクマが少なくなるということはないことを、ご理解いただきたい。

近隣への周知は

問 対策を行っていることを、どのようにして近隣に周知しているのか。



町内に設置された、クマ用の捕獲わな
※現在は撤去しています

学校での対応

学校での安全対策は

問 学校周辺でもクマ被害が出ている。安全対策をどうしているか。

教育次長 徒歩通学の地域を臨時的にスクールバス通学にしている。

避難訓練は

問 学校敷地内にクマが現れたことを想定して、避難訓練を実施してはどうか。

町長 万が一の際は、避難や教室から出ないことを啓蒙していく。まずはクマと遭遇したための方を指導すべきと考える。意見は参考にした。

私もひとこと

クマが毎日我が家の近くまで来ていると知ると、落ち着いて夜も眠れない。早めの対応を。
(町内60代)

総務厚生常任委員会 9月7日

町民の健康と福祉の増進へ

第2期健康と福祉の里構想の推進について説明を受けた。

【人材確保】

医療体制確保のため、診療所新規開設、承継（見込み含む）する医師・歯科医師に奨励金を交付する。

- 新規開設 1千万円
- 承継 300万円

【サービス提供 基盤整備】

今年度の健康福祉センター改修は実施設計に着手し、プライバシーに配慮した相談ブースの設置や身障者用駐車場からの融雪整備など、利便性を考慮した改修とする。

また、デジタル活用による健康づくりや介護予防、検診等データの利活用を検討する。

質疑

デジタルの活用

【委員】情報の活用について検討いただきたい。

【町長】デジタルの進歩により診断方法も変わってきた。総合病院とも連携し、デジタルをフル活用できるように整備していきたい。

福祉の人材確保は

【委員】福祉系従事者の人材確保はどうなっているか。

【当局】必要な職種が求められた際は、今の体制において対応していきたい。介護施設に従事する外国人人材経費も含めた対応をする計画であり、人材確保、サービス提供基盤の整備も考えていく。

障がい者の安心のために

第3次白鷹町障がい者プランの策定について説明を受けた。

【策定の趣旨】

障がい者を取り巻く現状、課題、まちづくりの方向性を含め、すべての人たちが暮らしやすく、障がい者が安心して生活できるようにするための施策の指針とする。

【基本理念】

地域とつながり、かがやきつづける一人ひとりの個性をいかし、地域で支えあいながら暮らしていくことができるまち。

質疑

連携の強化

【委員】連携の強化とはどういうことか。

【当局】障がい者相談員、民生委員など制度や活



動を超えた連携を考えている。

ノーマライゼーション

【委員】町民向けのノーマライゼーションの取り組みを考えているか。

【当局】職員向けに行った後、町民向けに行いたい。

その他

○第6次白鷹町総合計画の成果目標に対する進捗状況について等、説明があった。

総務厚生常任委員協議会 8月24日

助成額を増額

冬の生活応援事業（灯油等購入費助成）について説明を受けた。

【趣旨】

原油価格高騰の状況が今後も継続する見通しのため、灯油等購入費助成の額を増額し、価格高騰による負担軽減を図るもの。

【事業費】

- 給付費750万円（1万円×750世帯）
- 事務費22万円（消耗品費、通信運搬費）

【スケジュール】

- 12月上旬 案内（申請期限3月末）
- 12月下旬 支給開始

※質疑はなかった

【支給対象者】

次のいずれかに該当する、主に非課税世帯 ※対象見込み世帯数 750世帯

- ①65歳以上の者のみの世帯
- ②重度心身障がい者医療証交付世帯
- ③児童扶養手当受給世帯
- ④準要保護認定世帯



安心して生活できる冬期間の除雪体制

令和5年度の除雪事業について説明を受けた。

【除雪計画】

- ①雪押し場の確保
- ②歩道除雪の対応
- ③排雪作業の対応
- ④雪捨て場の確保

【関連する事項】

- ①凍結防止剤散布車による対応
- ②消雪道路の対応
- ③下水道マンホールの点検と補修の推進

【持続可能な除雪計画のために】

- ①除雪オペレーター担い手確保支援事業
- ②将来に向けた除雪路線の見直し
- ③広報活動の継続

質疑

ロータリー車の出勤

委員 幅員が狭くなる場所があるが、ロータリー車の出勤に関してはどうか。

当局 道路パトロール、通報などに応じて適時適切に対応する。

除雪委託料

委員 燃料が高騰しているが、委託料単価に考慮されているか。

当局 最新の山形県除雪単価を採用している。その単価には、燃料高騰分も加味されていると考えている。

委員 雪が降らない年で、除雪が少なかった年の対応はどう考えているか。

当局 雪が降らない時は、待機料として計算し対応している。

限界超えの対応

委員 昨年末、記録的な降雪があった。町民から、ご理解いただけるような対応をお願いしたい。

当局 電話などで対応し、できるだけご理解いただけるように職員から説明させていただいた。

その他

○黒鴨分収林について
○下水道事業の経営シミュレーションの検討状況について

○白鷹町公共下水道事業計画の変更について
○下水道事業の地方公営企業法適用に伴う条例改正について説明があった。

消費喚起で地域経済の活性化を図る

白鷹町緊急経済対策地域応援券給付事業について説明を受けた。

【事業概要】

物価上昇による生活への影響緩和及び消費喚起を目的として、基準日（想定：令和5年9月15日）現在で白鷹町内に住民登録を行っている方に対し、一人当たり5千円分の白鷹町内の事業参加加盟店で使用できる地域応援券（商品券）の給付を行うもの。

【配布時期（想定）】

10月下旬～11月上旬

【使用期間（想定）】

令和5年11月中旬頃～令和6年1月31日（水）

【事業費】

6900万円

質疑

事業参加店舗

委員 白鷹町の事業参加店舗とはどういう店舗か。商工会への加入有無は問うのか。

当局 昨年度以前に参加いただいた店舗には個別に案内して募集したい。商工会の会員であるか否かは問わない。

心配される店舗による差

委員 事業参加店舗によつて差が出てくると思われるが、どう考えているか。

当局 町民の皆さんが日頃のお付き合いやサービスの状況などを把握しながら利用していただけたらと思う。

町外事業者の対応

委員 移動販売の事業者は、町外の事業者だがその対応は。

当局 町外の事業者に関しては、白鷹町商工会に加入しているのが対象となる。



その他
○6次産業化推進拠点施設整備事業等について説明があった。

人事

●白鷹町教育委員会委員の任命に同意

任期満了（9月30日）に伴い、引き続き任命するもの。



迎田 浩昭 氏（再任・荒砥甲）

選挙

●任期満了（9月30日）に伴う選挙により、次の方々が当選しました。

選挙管理委員

- 小川 浩美 氏（荒砥甲）
- 梅津ツヤ子 氏（横田尻）
- 高橋 康子 氏（荒砥甲）
- 福田 芳郎 氏（鮎 貝）

選挙管理委員補充員

1. 中川 俊則 氏（十 王）
2. 佐藤 雅志 氏（広 野）
3. 菅原 美穂 氏（荒砥甲）
4. 高木志津子 氏（山 口）

期待したい運営の継続性

白鷹町ふるさと森林公園再整備について説明を受けた。（9月14日）

【運営に係る】

引継ぎ状況

株式会社H.E.S.T.A（以下ヘスタ）大倉は、人材確保や営業の継続性も踏まえ、現在の職員を雇用したい意向がある。

8月31日と9月1日に白鷹町アルカディア財団の該当職員に対しヘスタ大倉より会社概要の説明、個人面談の場を設けた。

【再整備の方向性】

建設から35年以上経過した施設や、保全経費が大きく見込まれる施設は、コンパクト化や集約化による再整備なども選択肢に含めて検討し、再整備検討委員会に示して意見をいただきながら方針を決定していく。また給水施設の給水管の老朽化に

についても、併せて整備手法を検討する。

質疑

地元業者との取引の継続

委員 地元業者との取引は継続されるのか。

当局 引き続き現在の業者との取引を継続していきたいとしており、一覧を提示している。基本的には踏襲したいという話をいただいている。

お湯の掘削

委員 お湯については、温度が上がる深さまで掘るのか。

町長 昇温するのにかなりの量の燃料を使用している。トータル的にどうしていくか、業者と相談しながら前向きに検討していきたい。

個別面談

委員 個別面談を実施して、ヘスタ大倉はどのような受け取られたか。

当局 28名の全職員と面談していただいた。まずはヘスタ大倉がどういう企業が理解していただく、職員の思いを聞くといった、お互いのコミュニケーションを取る事が目的であった。とても良い面談を実施できたと思っている。

表紙

地域の知恵を学ぶ

蚕桑地区

こぐわキッズ広場

「放課後子ども教室」から発展し、コーデイネーターを中心に、地域の方々による教育活動サポーター15名と各種団体を巻き込んで活動しています。

畑を通しての事業を中心に、種まきから草むしり・収穫・調理まで、一年を通して行います。なかなか家庭では得られない伝統食や郷土食など、地域の大人から生活の知恵を学んでいます。



追跡 レポート 政策提言は町政にどう生かされたか

昨年、町長に提出した政策提言に対し、議会に回答が示された。提言が町政に生かされ、町民の暮らしに反映されているのか。抜粋して掲載する。



提言

回答

1 ポストコロナの地域づくりについて（企画政策課）

提言内容	回 答
住民の地域づくりに対する意識が薄れないよう、地域づくり交付金を継続し事業参加意識の醸成を図ること。	地域の方々の思いを形にできるよう、経費面での支援のほか情報提供などを行いながら、継続した支援を行っていく。

2 第2期健康と福祉の里構想におけるサービス提供について（健康福祉課・町立病院）

提言内容	回 答
今後、サービス提供を進め、施設機能を維持していくうえで、維持管理費も含めた長期的な視点を持って事業に当たること。	構想の実現に向けて、持続可能な体制を維持し諸課題へ対応するため、①専門職等の人材確保②サービス提供基盤整備③関係機関との連携推進を掲げ、施設機能的な面については、個別施設計画も老朽度調査と併せて検討しており、将来に渡りコスト低減につながるよう対応に当たる。

3 町民サービス向上に向けたデジタル化推進について（企画政策課・町民課）

提言内容	回 答
デジタル化推進に向けて、マイナンバーカードの取得、普及が必須となる。全ての世代が利用し、その効果を最大限に発揮できるよう取り組みを進めること。	マイナンバーカードを利用した窓口申請支援システムを構築し、令和5年5月中旬から運用を開始した。マイナンバーカードから住所や氏名等を読み取り、職員がタブレットで申請書を作成するため、紙の申請書を書いていただく必要がなく、申請される方の負担軽減が図られている。引き続き、マイナンバーカードを活用した取り組みを推進し、町民サービスの向上に努める。

4 先を見据えた観光のあり方について（商工観光課）

提言内容	回 答
白鷹町の観光交流の課題を点検し、観光客を呼び込むための先を見据えた基本方針と具体的な施策を検討すること。	新型コロナウイルス感染症の影響により変化したニーズの把握に努め、観光協会や関係団体と連携し、専門的なアドバイスなどもいただきながら具体的な施策の検討を行っていく。

5 当町の持続可能な農業のビジョンについて（農林課）

提言内容	回 答
当面の支援策を継続すると共に、持続可能な農業にするための施策を検討すること。	さまざまな政策を踏まえた総合的な検討を行うため、関係機関で構成する「農業振興検討会」を立ち上げ、課題や方向性の整理を行っていく。引き続き農業経営の安定に向け、国・県の動向を注視しながら効率的な支援策について検討していく。

6 当町の商工業への施策について（商工観光課）

提言内容	回 答
商工業の実態を把握すると共に、支援策を検討すること。	令和5年度に外国人労働者の町内における雇用状況等についてアンケート調査を実施し、現状や課題を把握するとともに、必要な支援策について検討していく。

7 災害復旧のあり方について（農林課・建設課）

提言内容	回 答
地域の方や受益者などの意向もくみ、予防・減災の視点で現況復旧よりも進めた対応や、早い実施ができるよう事務の簡素化などを国・県に強く働きかけること。	災害復旧事業は、事務の簡略化などが進んでいる。復旧箇所によって、単なる復旧では限界があり、再被災防止のための被災原因の除去や機能強化策を検討・実施するなど、抜本的な対応が必要な場合がある。引き続き、国・県等の関係機関にその実情について情報提供を行っていく。

積極的に挑戦
したいですね。



橋本 ^{りょう} 亮 さん (菖蒲)

輝く地域の力

白鷹の未来を彩る

白鷹町商工会青年部

… 1人はみんなのために …

商工会青年部長の橋本亮さんに、お話を伺いました。

商工会青年部とは
町内の商工業に従事する青年の情熱と実行力を結集して、商工会の事業に積極的に協力し、地域商工業の振興発展に寄与することを目的にする組織です。現在の部員数は22人で、今年度で創設57年となりました。

どのような活動を
主なものは、イベントへの売店出店や、ベニたかちゃんによる広報活動、SNSでの情報

発信などです。

また、令和元年度からスタートした「しらたか米沢牛まつり」を8月に開催し、現地飲食の実施は4年ぶりとなりました。準備は大変でしたが、お客様の喜びを見てやりがいを感じました。

活動スローガンは

今期は「one for

everyone 1人はみんなのために」としました。掲げた理由は、部員数の減少により、各事業が現状の規模でやっていけるのか、やり方を変える必要があるのではないかという課題が見えてきました。そこで部員一人一人がそれらを再認識し、部一丸となり、一歩ずつ進んでいくという「one for all」の精神が必要と感じたからです。

苦労することは

スローガンのもと、「次世代に繋ぐ」ということに重点を置いていくため、部員増強と、体制作りの点です。従業員で加入された方は、準部員となりますが、こうした方を広く募っていくことにも力を入れています。

体制作りにおいては、変えなければならぬ部分を洗い出し、結果に応じた対策を講じていきたいと思います。

入部して得たものは

一番は「繋がります」。青年部活動の楽しさ、大変さ、やりがいなど多くのことを教えてくださった先輩方との出会いは本当に大きいです。

また、本町や県内各地区の青年部の仲間との多くの出会いから、自分自身の成長や、事

業の発展に結びついていくのが青年部の素晴らしいさだと思います。

入部を希望される方は町商工会へぜひご連絡ください。



議会へひとこと

これからも、地域のため失敗を恐れず積極的に挑戦していきたいと、思いますので、お力添えのほど、よろしくお願ひいたします。

取材を終えて

日々の仕事と青年部活動を両立されている姿には、凛々しさと、満ちあふれた充実感が感じられました。(丸川)

編集後記



記録的な猛暑や豪雨など、観測史上最高という言葉が多く耳にするようになりました。9月に入っても収まらない異常な暑さの中での開会となった今定例会にも、多くの方が傍聴においてになりました。

当議会では、会議の様子をインターネットで配信しています。議場に来られない方は、お手持ちのスマートフォンやタブレットなどから簡単に見ることが出来ます。過去の会議の録画映像や議事録も配信していますので、本紙議会日より照らし合わせて、一度ご覧になってみてください。(佐々木)

広報委員

- 委員長 丸川 雅 春
- 副委員長・編集長 佐々木 誠 司
- 委員 金 田 悟
- 委員 竹 田 雅 彦
- 委員 衣 袋 正 人
- 印刷 (有)梅津印刷

お手持ちのパソコンやスマホ等で議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。

発行責任者 白鷹町議会議長 菅原 隆男 編集 議会広報特別委員会

〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833番地 電話 0238-85-6135 FAX 0238-85-2128
E-mail gikaijimu@so.town.shirataka.yamagata.jp HP http://www.town.shirataka.lg.jp/gikai/

